

3. ロービジョン者に配慮した設備事例整理

前記の既往調査整理やヒアリング調査の結果を基に、ロービジョン者にとって問題となる設備整備と分かりやすい施設整備の事例について、各設備に分類して事例を整理した。

※整理にあたっては、問題が顕在化している事例写真及びコメントを点線で囲んで表現した。

3-1. 通路

●床と壁のコントラストがとれている空間は認識しやすい



みなとみらい線_馬車道駅



床も壁も薄い同系色の為、空間の認識がしにくい事例①



都営地下鉄大江戸線_飯田橋駅



床も壁も薄い同系色の為、空間の認識がしにくい事例②

●通路の方向を照明が誘導している



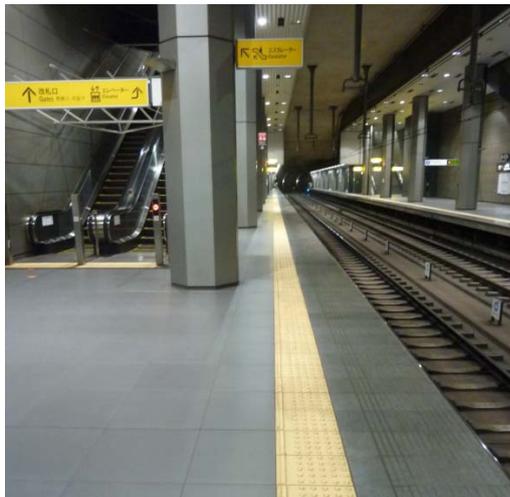
東京駅八重洲地下



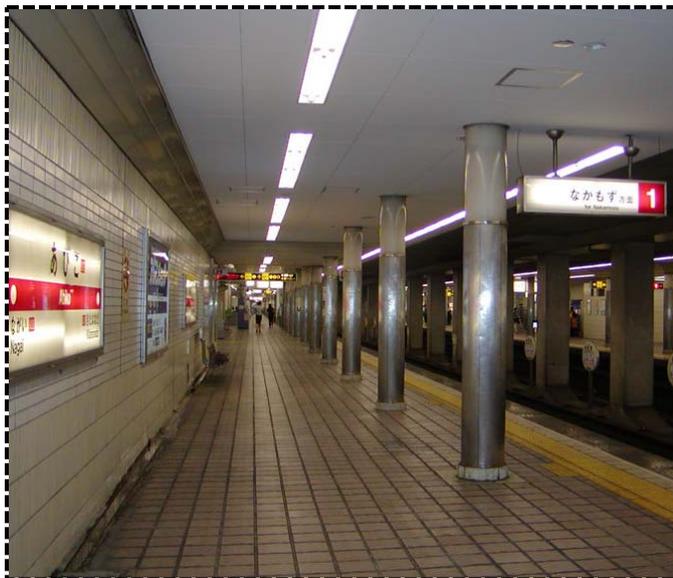
中部国際空港

3-2. プラットホーム

- 床面と誘導ブロック、壁と柱のコントラストがついていると、空間が認識しやすい



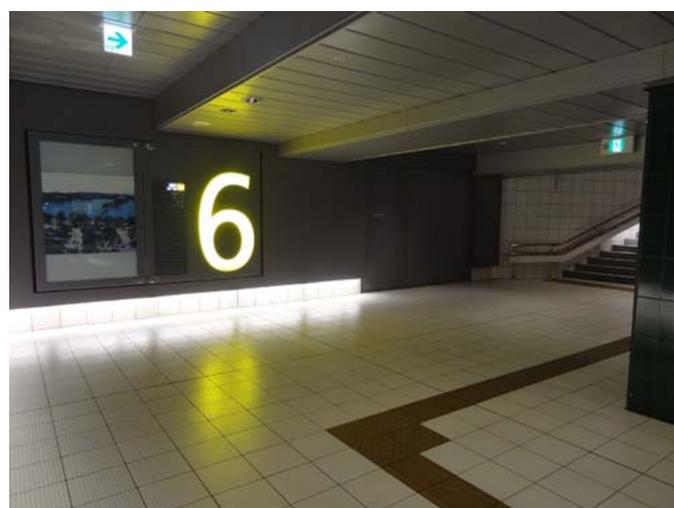
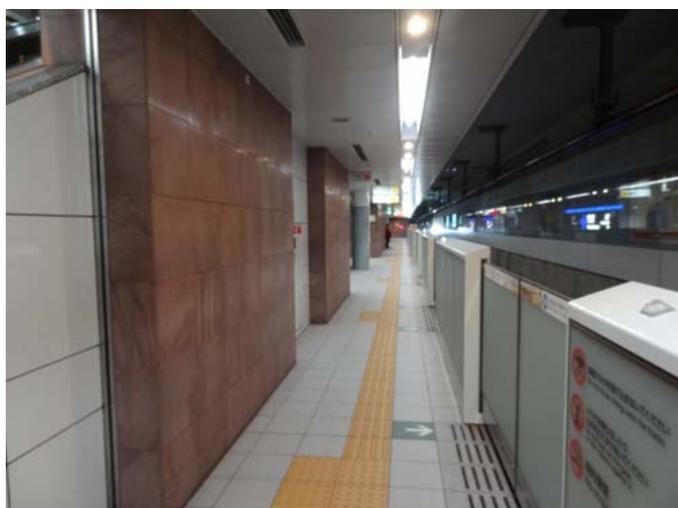
みなとみらい線_新高島駅



床と柱が同系色で障害物（柱）を認識しにくい事例

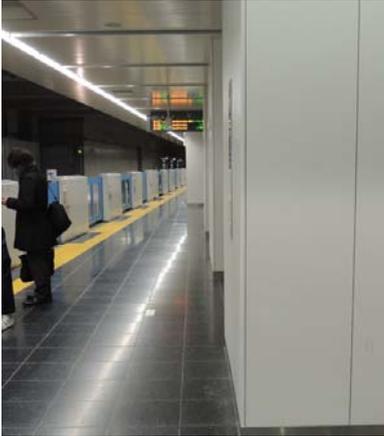


床の横帯デザインが段差に感じてしまう事例



七隈線_天神南駅

- 床面は濃色、誘導ブロックは黄色、壁は薄色でコントラストがハッキリしている



京王線_調布駅

- ホーム上の段差は危険である



ホーム上に段差がある事例

3—3. 階段

- 段鼻ラインの位置、踏み面とのコントラストにより、ステップが認識しやすくなる



J R_三宮駅



段鼻が分からないため「坂」のように見える事例



みなとみらい線_馬車道駅



錯覚を起こす可能性のある事例



みなとみらい線_新高島駅



錯覚を起こす可能性のある事例



京王線_明大前駅



錯覚を起こす可能性のある事例

3-4. エスカレーター

●上り・下りの案内が吊下表示、柱表示、床面表示などで示されている



りんかい線_大井町駅



上り、下りの表示がない事例



恵庭駅



側面壁に「下り専用」の表示がある事例



東京メトロ_永田町駅（上りと下りの間に方向案内）



床面サインによって方向を案内している



重厚な設備

JR_十王駅



少しの工夫

京急_蒲田駅

みなとみらい線
新高島駅

3-5. エレベーター

- サイン表示、エレベーターそのものが存在を示すデザインであると、認識しやすい



りんかい線_大井町駅



認識しづらいエレベーター



井上眼科病院



京王線_調布駅



認識しづらいエレベーター

- エレベーターのボタンは、大きさ、色、表示方法などで見やすさが違う



- 無駄な表記が無い
- 赤地に黒の表記
- 階数表示が内照式
- 階数表示文字が大きい
- 文字が小さい?
- 開閉ボタンの幅が違うので、視覚的に開くのか、閉まるのかが分かる。



3-6. 案内誘導サイン

●コントラストが強くて大きなサイン表示は認識しやすい



神戸空港



京王線_調布駅



浜松町駅



表示は大きいですが、色のコントラストが弱く表示が認識しづらい事例



みなとみらい線_新高島駅



井上眼科病院



白地に黒文字の吊下げ式サインが、全体的に白い空間の中にあり、認識しづらい事例



りんかい線_大井町駅

- エスカレーターの進行方向を示す床面サインはコントラストの強い表示であれば認識しやすい



大阪高速鉄道_万博中央駅



西武新宿線_航空公園駅



りんかい線_大井町駅

- トイレの男女の区別を示すサインは、色、大きなピクト表示などが認識しやすい



井上眼科病院



新宿駅



国際障害者交流センター